

# 103-334

## 問題文

74歳男性。4年前に前立腺癌StageⅢとの診断により内分泌療法が開始された。今回、内分泌療法抵抗性となったため、「ドセタキセル75mg/m<sup>2</sup>、1日1回、1時間かけて点滴投与、3週間毎」を開始した。

化学療法施行中、患者から「注射している所がひりひりして痛い」との訴えがあった。薬剤師が確認したところ、左前腕の点滴ルート刺入部位に腫脹を認め、薬液が皮下に漏出していた。

連絡を受けた医師が直ちに点滴の注入を止めた。この患者に対する対応として、適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 留置針に残った薬液をシリンジで回収する。
2. 左前腕を胸より高い位置にあげる。
3. 漏出部位を温める。
4. 左前腕の漏出部位以外から点滴を再開する。

---

## 解答

1, 2

## 解説

血管外漏出です。血管外漏出とは、抗がん剤が血管外へ漏れ出ることによって周囲の軟部組織に傷害がおきて自覚的、他覚的症兆が生じることです。直ちに注入中止→漏出薬剤の確認、回収→挙上安静→薬剤により個別に対応という流れをとります。従って、正解は1,2です。

ちなみに、血管外漏出に関して抗がん剤は大きく3つに分類されます。

- 1：ビシカント薬剤（ドキソルビシンなど）＝血管外へ漏れ出た場合、水疱や潰瘍をもたらす薬剤
- 2：イリタント薬剤（イリノテカンなど）＝注射部位や周囲、血管に沿って痛みや炎症をもたらす薬剤
- 3：非壊死性薬剤（オプジーボなど）＝漏出しても、組織が傷害を受ける可能性が低い薬剤